

ラムサール条約 湿地

佐潟



場所：西区赤塚
面積：約44ha

佐潟を守る人たち

佐潟では地域住民が中心となって、湿地環境の保全の取り組みなどが行われています。

私たちは、佐潟を通して自然や歴史文化、地域活動を次世代につないでいくためにさまざまな保全活動をしています。

佐潟の水は湧水と雨水だけで流入河川がなく水質が悪くなりやすいため、潟内の泥揚げをする「潟普請」や、潟に生えているヨシの刈り取りなどを地域の人や地元中学校、企業と連携して行い、人為的に手を加えて保全しています。また、水質の悪化やアカミミガメなどが原因で佐潟から姿を消したハスを、生物多様性を保つためにも復活させたいと思い、地元小学校と連携して取り組んでいます。

多くの人に佐潟に来てもらって、佐潟に関心を持ってもらい、自然環境や地域のことを自分事として考えてもらえたらうれしいです。

今、佐潟には多くのハクチョウが来ているので、ぜひ見に来てください。



佐潟と歩む赤塚の会 代表 浦井 晴之さん

市街地に隣接する潟 鳥屋野潟



場所：中央区鳥屋野、ほか
面積：約158ha

中央区の市街地に隣接する潟。鳥類は180種以上確認され、冬には約4,000羽を超えるハクチョウが飛来します。潟マルシェなどのイベントや、潟内の栄養循環を良くするために「空心病」を栽培するなど、市民団体により、さまざまな活動が行われています。



場所：西蒲区松野尾
面積：約11ha

角田山の麓の潟 上堰潟

一度干上がり陸化しましたが、1993年から数年かけて復元した潟です。四季折々の花などが楽しめ、わらアートまつりなどのさまざまなイベントが行われる上堰潟公園内にあります。



場所：東区松園
面積：西池約0.5ha 東池約0.3ha

アカマツに囲まれた池 じゅんさい池

市街地にある貴重な砂丘湖で、東池と西池からなります。東池にはスイレンやヒシ、西池にはジュンサイなどの水生植物が生えています。

イベントも掲載！

そのほかの潟について詳しくは「新潟市潟のデジタル博物館ホームページ」に掲載しています。スマートフォンはこちらから▶



スマートフォンは
こちらから

佐潟水鳥・湿地センター

(西区赤塚)
館内ではスコープで野鳥の観察ができ、野外観察用に双眼鏡の貸し出しも行っていきます。

時 9時～16時半 ※11～2月の土・日曜は7時から。月曜(祝・休日の場合翌日)、12月29日(金)～1月3日(水)休館
入館無料
同センター(☎025-264-3050)

トピック

ミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニを野外に放さないで！

今年6月、同生物が「条件付特定外来生物」に指定されました。

現在飼育している人は野外に放さず、寿命を迎えるまで責任を持って飼育しましょう。

もし野外で見かけたら？

一度でも手に取り移動させた場合は原則、野外に放すことができないため、拾った人の責任で飼育したり引き取り先を探したりする必要があります。

自分で飼う意思がない限りは拾ったり移動させたりせず、そっとしておきましょう。



▲ミシシippアカミミガメ



▲アメリカザリガニ



場所：北区新鼻甲、ほか
面積：約262ha

市内最大の潟 福島潟

13本の河川が流入する市内最大の潟。国の天然記念物オオヒシクイの日本有数の越冬地で、ヨシが島状に広がり、春には菜の花が咲き誇ります。毎年3月に、潟の環境保全のためヨシ原に火を付ける「ヨシ焼き」が行われます。植物は470種以上、鳥類は220種以上確認されています。



水の駅「ビュー福島潟」

(北区前新田乙)

屋上から潟と越後平野を一望でき、館内では潟の動植物や歴史の展示、潟の中のライブ映像を楽しむことができます。

時 9時～17時 ※月曜(祝・休日の場合翌日)、12月28日～1月4日(木)、1月23日(火)～28日(日)休館
一般400円、小・中学・高校生200円(1～3階は無料) 同施設(☎025-387-1491)

スマートフォンは
こちらから



新潟市内には16カ所の潟があります。潟は市の鳥「ハクチョウ」を含む渡り鳥の貴重なすみかであり、多様な生物が生息・生育する、自然豊かな場所です。

を知ろう



潟マップ KATA MAP

私たちが解説します！



「潟」の専門家

新潟大学 名誉教授 大熊 孝さん
新潟国際情報大学 国際学部 教授 澤口 晋一さん

2人の所属する「新潟市里潟研究ネットワーク会議」では、各潟の成り立ちや歴史などを調査・研究し、ガイドブック「右二次元コード」などを作成しています。



私たちと自然をつなぐ「潟」

新潟市は、潟や水田、里山、海岸保安林など、人との関わりで作られた自然環境がたくさんあります。

越後平野にある湖沼のことを、新潟では昔から「潟」と呼んできました。市内に16カ所残された潟は、人が関わることで多様な動植物の生育や環境が保たれた「里潟」であり、自然と人をつなぐ、かけがえのない場所です。

世界に認められた「国際湿地都市・新潟」

新潟市は大都市でありながら水田面積が全国1位など、都市と自然が隣り合い共存する、類まれな環境を持つ都市です。潟などの自然環境やそれを保全する人たちの取り組みなどが評価され、自然と共存する都市として、国内で初めて「ラムサール条約湿地自治体認証」=右囲み=を受けました。

身近な自然、「潟」に行ってみませんか

潟はその成り立ちも含めて、貴重な動植物や渡り鳥などの自然の豊かさや、生物多様性の恵みと大切さを感じさせてくれます。自然を感じると心穏やかになり、リフレッシュもできますよ。

また、地球温暖化などの地球規模の環境問題や自然災害への対策を考える上でも、住む場所の自然を知り、理解することが大切です。まずは身近な潟に行って風に吹かれ、自然を感じてみませんか。

新潟市の鳥「ハクチョウ」を見に行こう

ハクチョウってどんな鳥？



くちばしは黒と黄色
体は白色
(幼鳥の体は灰色)
足は黒色で
大きな水かきがある

体長・体重



オオハクチョウ 約140cm、8～12kg
コハクチョウ 約120cm、5～7kg

時間等別 ハクチョウに会える場所

- 朝・夕方 潟、川の中州、水辺 ねぐらになっている潟や水辺にいます。主なねぐらの福島潟、鳥屋野潟、佐潟には野鳥観察舎があり、その屋上から観察するのがお勧めです。
- 昼 田んぼ 落ちた穂や二番穂、草などの餌を食べたり昼寝をしたりしています。

いくつ知ってる？ ハクチョウの豆知識

- 新潟市はコハクチョウの越冬数が全国で最も多く、毎年1万羽が飛来する
- 一度カップルが成立すると、生涯を添い遂げる
- 体重が重いため、飛び立つには数十メートルの助走が必要
- 見張り中 餌を食べているとき、首を伸ばして見張りをしているハクチョウが必ずいる

もっと知りたい人は！

ハクチョウガイドブック

新潟市に飛来するハクチョウの情報を掲載しています。同ガイドブックは新潟市ホームページから閲覧できます。



スマートフォンは
こちらから

野鳥の観察イベントに参加しよう
佐潟探鳥散歩 日 11月11日・25日(土)7時半～9時 集解 佐潟水鳥・湿地センター(西区赤塚) 野鳥観察舎「雁晴れ舎」(北区新鼻地内) 無料 同センター(☎025-264-3050)

福島潟オオヒシクイ案内所 日 11月19日・26日(日)6時半、12月3日・10日(日)6時40分、17日(日)6時50分 ※各1時間(随時参加可) 野鳥観察舎「雁晴れ舎」(北区新鼻地内) 無料 水の駅「ビュー福島潟」(☎025-387-1491)

鳥屋野潟探鳥会 日 11月26日(日)8時～10時 集解 県立鳥屋野潟公園内、あずまや「いやしの庭園」(中央区鐘木) 無料 ※筆記用具が必要(双眼鏡、ポケット図鑑がある人は持参)。小学生以下は保護者同伴 環境政策課(☎025-226-1359)

野鳥観察の参考に！

お勧めスポットやマナーをまとめた「にいがた野鳥観察ガイドブック」はこちら ▶

